刊経営す○当選三回(7 11 12)○大正8年5月21日死去

横川重次　埼玉県第二区選出　自由民主党

明治27年11月生・埼玉県出身・大正6年早稲田大学哲学科卒、のちベルリン大学に社会学を専攻す○商工大臣秘書官、阿部内閣の商工政務次官、商工省参与となる、また農林業を営み、武州合同織物工業組合理事長、第八十五銀行取締役、県森林組合連合会長、日本林業会長、武蔵野銀行取締役、武蔵野産業㈱社長となる、立憲政友会総務、自由党総務、自由民主党相談役、会計監督となる・派遣軍慰問のため満州へ派遣さる○当選八回(15補 17 18 19 20 21 25 27)

横澤本衛　長野県郡部選出　立憲政友会

嘉永6年1月生・長野県出身・普通学を修む○酒造業を営む、北城郵便局長、北安曇郡所得税調査委員、同郡会議員、長野県会議員、北城村長となる、また安曇電気㈱社長、長野農工銀行監査役、信濃銀行取締役、北安銀行、北信貯蓄銀行各頭取となる○当選一回(8)○大正4年2月16日死去

横錢重吉　千葉県第一区選出　日本社会党

大正3年3月生・千葉県出身○野田醤油㈱社員となり、野田醤油従業員組合書記長、副委員長、執行委員長となる、また千葉県会議員、千葉県労働金庫理事長となる(著)「新しい風」○当選一回(27)

横田孝史　兵庫県郡部選出　憲政会

安政3年7月生・兵庫県出身・姫路師範学校卒、のち緒方医塾に学ぶ○教員となり、のち薬局を開業す、神戸商法会議所理事、同商工会議所議員となり、神戸市会議員、同議長、兵庫県会議員、同参事会員、同議長、地方衛生会員、地方森林会員、同副議長、また神戸瓦斯、神戸電気鉄道、兵庫電気軌道各㈱重役、県薬剤師会頭、神戸薬業組長となるほか、薬業雑誌を発刊経営す○当選三回(11 12 13)○昭和9年12月6日死去

横田甚太郎　大阪府第三区選出　日本共産党

明治40年3月生・大阪府出身○吹田町会議員、吹田地区農地委員となる、三島無産者診療所事務長、労働農民党三島支部書記長となり、日本共産党大阪地方委員となる○当選一回(24)

横田清藏　千葉県選出　日本自由党

明治19年4月生・千葉県出身・明治41年千葉県師範学校卒○千葉県会議員、同議長、県農業会監事、飯岡町農業会長、飯岡農業協同組合長となる○当選一回(22)

横田千之助　栃木県第七区選出　立憲政友会

明治3年8月生・栃木県出身・明治26年東京法学院、同36年同高等研究科卒○代言人となり、次いで弁護士の業務に従事し、傍ら植林、製材業を経営す、原内閣の法制局長官兼恩給局長、加藤(高明)内閣の司法大臣となり、鉄道院共済組合審査会議長、国勢調査評議会副会長、高等捕獲審検所評定官、臨時教育行政調査会副会長等となる、また立憲政友会幹事長、総務となる・全権委員随員としてワシントン会議に参列す○当選五回(11 12 13 14 15)○大正14年2月5日死去

横田虎彦　北海道庁函館外三支庁管内選出　大同倶楽部

安政3年12月生・大阪府出身・漢籍、独逸語及び法律を学ぶ○弁護士の業務に従事す、大阪市会議員、同府会議員、同参事会員、大阪組合弁護士会長となる、また関西日報、大阪自由新聞を発刊す○当選四回(7 8 9 10)○死去

横堀三子　栃木県郡部選出　大同倶楽部

嘉永5年9月生・栃木県出身・漢籍を修む○芳賀郡書記、栃木県会議員、同議長となり、のち芳賀

郡長、台湾総督府台中県苗栗支庁長、台中県書記官を歴任す、農業を営む○当選四回(17 8 9)○大正3年3月24日死去

横堀治三郎　千葉県第三区選出　立憲政友会

明治4年3月生・東京都出身・明治27年東京帝国大学採鉱冶金科卒、のちドイツにおいて冶金学を研究す、工学博士○三菱(資)高嶋炭坑技士となる、のち工科大学助教授、海軍機関学校教授、京都帝国大学理工科大学教授、秋田鉱山専門学校長を歴任す、また第五回内国勧業博覧会審査員、鉱毒調査会委員、台湾総督府嘱託となる、商工省嘱託としてフイラデルフイア万国博覧会に出張す○当選一回(16)○昭和13年5月27日死去

横路節雄　北海道第一区選出　日本社会党

明治44年1月生・北海道出身・昭和6年札幌師範学校卒○札幌市幌西小学校教諭となり、北海道教職員組合委員長、日本教職員組合副委員長を経て北海道議会議員となる、また日本社会党道全議員団幹事長、同党北海道支部連合会書記長、中央執行委員、学生対策部長、国会対策副委員長、労働部長となり、日本民主教育政治連盟北海道支部長、日本社会党原水爆禁止特別委員長となる・ヨーロッパ、アジア各国を視察す○当選五回(25 26 27 28補)

横山章　石川県金沢市選出　公友倶楽部

明治7年1月生・石川県出身・明治28年東京物理学校卒○鉱業を営む、金沢商工協会顧問、金沢商業会議所会頭、県地方森林会議員、県山林会副会長、済生会評議員となる、また(名)横山鉱業部社長、温泉電軌、倉庫精練、ボルネオ護謨各㈱社長、加州銀行、金沢電気瓦斯、共同生命保険、南洋鉄鉱各㈱重役、日本硬質陶器、日本タイプライター各㈱取締役となる○当選一回(12)・(貴)(多額)○昭和13年4月14日死去

横山一格　愛知県第一区選出　立憲民政党

明治13年3月生・三重県出身・明治38年京都帝国大学医学部卒○大阪胃腸病院副院長となり、のち医師を開業す、名古屋市会議員、同学務委員となる、また名古屋聯隊区教育会長、名古屋市衛生組合長、同医師会議員、愛知県医師会長となる○当選二回(15 18)○昭和8年1月23日死去

横山一平　千葉県選出　立憲政友会

文久2年5月生・東京都出身・金沢育英学校卒、のち漢学、英学及び法律学を修む○義俠館を設立し会長となる、のち鉱山業に従事す、鉄道工業㈱副社長、常盤興業㈱社長となり、大日本捕鯨㈱専務取締役、日本石材、大日本水道木管、金福鉄道各㈱取締役、金沢電気鉄道、東洋捕鯨各㈱社長となる○当選二回(9)○昭和7年6月10日死去

横山勝三郎　大阪府第八区選出　弥生倶楽部

安政元年6月生・大阪府出身○戸長、泉北郡連合会議員、大阪府会議員、同常置委員、勧業諮問会員、学務委員となる、また南海鉄道㈱取締役、大阪農工銀行取締役となる○当選一回(1)○明治38年1月29日死去

横山勝太郎　東京府第一区選出　立憲民政党

明治10年11月生・広島県出身・明治33年日本法律学校卒○司法官試補となる、のち弁護士の業務に従事し、東京市会議員、芝区会議員、濱口内閣の商工政務次官となる、また東京弁護士会長、憲政会政務調査会長、幹事長、総務、立憲民政党代議士会長となる○当選五回(13 14 15 16 17)○昭和6年5月12日死去

横山金太郎　広島県第三区選出　立憲民政党

明治元年11月生・広島県出身・明治24年東京法学院卒○西条区裁判所、松山地方裁判所宇和島支部各判事、台湾総督府法院判官を歴任す、のち弁護

士の業務に従事し、破産管財人、広島県会議員、同副議長、同市部会議長、広島市会議員、同議長、第二次若槻内閣の文部政務次官、鉄道会議議員、広島市長となる、また広島弁護士会長、同常議員会長、立憲民政党総務となる○当選九回(10 12 13 14 15 16 17 18 19)○昭和20年9月25日死去

横山泰造 岡山県第一区選出 立憲政友会

明治3年9月生・岡山県出身○邑久郡会議員、同議長、鶴山村長、岡山県会議員、同議長、日生町長となり、所得税調査委員、郡農会長、郡畜産組合長、県畜産組合連合会副会長、中央畜産会副会頭となる、また岡山煉乳㈱社長、帝国馬匹協会理事、岡山相互金庫、岡山内燃工業組合、岡山酪農販売購買利用組合各理事長、淡路煉乳㈱顧問となる○当選二回(16 18)○昭和22年4月10日死去

横山利秋 愛知県第一区選出 日本社会党

大正6年10月生・愛知県出身・昭和12年中京商業学校卒○名古屋鉄道局に勤務、労働基準審議会委員、日本ILO協会常任理事、国鉄労働組合中央執行委員、企画部長、本部書記長、顧問となる、また日本社会党公社制度調査特別委員長、政審会商工部長、中小企業国会議員協議会理事長、貿易自由化対策特別委員会事務局長、総評議員団幹事、同党愛知県連顧問となる・仏労組総同盟の招聘により欧州各国、ソ連邦、中国等を視察す㊐「公労法の解釈と運用」「鐘は鳴る〈政策百話〉」○当選二回(27 28)

横山富次郎 東京府第四区選出 無所属

文久3年2月生・東京都出身・仏学塾に学び、明治21年東京仏学校卒○呉服、木綿問屋を経営、のち大和商会を創立し、雑貨類等の海外貿易業に従事す、日本橋区会議員、東京府会議員、同常置委員、東京市会議員となる○当選一回(6)○昭和11年3月21日死去

横山寅一郎 長崎県第三区選出 立憲政友会

万延元年6月生・長崎県出身・大村藩五教館に学ぶ○兵庫県、長崎県各警部となる、のち私立大村中学校を創立しその校主となり、育英事業に従事す、大村村会議員、長崎県会議員、同常置委員、同副議長、長崎市長となり、徴兵参事員、地方衛生会委員、長崎市長となり、徴兵参事員、地方衛生会委員、臨時博覧会評議員となる、また国光生命保険(互)専務取締役、大村湾真珠㈱取締役社長、愛知耐火煉瓦、東京築地活版製造所、佐世保軽便鉄道、東北拓殖各㈱取締役となる○当選五回(9 10 11 12 14)○大正12年5月22日死去

横山通英 宮崎県第二区選出 立憲政友会

安政6年4月生・宮崎県出身・明治8年宮崎学校師範学科卒○小学校訓導となり、のち学務委員、戸長、宮崎県会議員、同参事会員、小林村会議員、同村長、徴兵参事員、地方衛生会委員、西諸県郡参事会員となる、また農業を営み、小林製糸場取締、郡蚕糸業組合組長、村農会長、宮崎新報社、宮崎県農工銀行各取締役となる○当選二回(5 6)○大正5年12月5日死去

横山勇喜 秋田県第二区選出 立憲革新党

嘉永5年10月生・秋田県出身○農業を営む、秋田県会議員、同議長となる○当選一回(3)○明治30年11月7日死去

由雄與三平 石川県第三区選出 無所属

弘化2年1月生・石川県出身○津幡村会議員、同議長、石川県会議員、郡連合村会議長、津幡村外六ケ村長となり、勧業諮問会員となる○当選一回(2)○明治43年1月4日死去

吉植庄一郎 千葉県第二区選出 立憲政友会

慶応元年9月生・千葉県出身・明治16年千葉県立中学校卒○北海道において開墾に従事す、北海時事新聞社長、北海タイムス社理事、中央新聞社理事、同社長となるほか、大阪新報社を経営す、外務省、北海道庁の嘱託を受け、植民制度調査のため南米に渡航す、文部省参事官、田中内閣の商工政務次官となる、また立憲政友会総務、政友本党総務となる○当選九回(9 10 11 12 13 13再 14 15 16)○昭和18年3月10日死去

吉植庄亮 千葉県第二区選出 無所属倶楽部

明治17年4月生・千葉県出身・大正5年東京帝国大学経済科卒○中央新聞文芸部長となる、のち農業及び開墾事業に従事し、農村青年学校を創設す、本埜村会議員、同農会長、印旛郡穀物改良協会、同耕地協会、同治水会各会長、県耕地協会評議員、内閣委員、大政翼賛会中央協力会議員、印旛沼、手賀沼治水開発協会長となる、また歌誌「橄欖」を主宰し、日本歌人協会常務委員、千葉県歌人会長となる・派遣軍慰問のため中支那へ派遣さる㊐歌集「寂光」「煙霞集」「くさはら」「大陸巡遊吟」「開墾」「海嶽」、随筆集「馬の散歩」「お米談義」○当選三回(19 20 21)○昭和33年12月7日死去

吉江勝保 山梨県選出 自由党

明治33年4月生・山梨県出身・昭和2年東京帝国大学英法科卒○静岡県属、警視庁警視、山梨県保安課長、警視庁交通課長、愛知県農務課長、佐賀県警察部長、厚生省体力局施設課長、人口局体育、体鍛各課長、内務書記官を経てジャワに派遣され、ジャカルタ特別市長、ケデリ州長官を歴任、内地帰還後、再度山梨県知事となる、また自由民主党総務、文教調査会副会長、参議院内閣委員長となる・日本インドネシア平和条約の調印式に外務大臣顧問として参列す○当選一回(25)・(参)一回(4)

吉岡倭文麿 島根県第六区選出 無所属

嘉永2年9月生・島根県出身○延喜式内社水祖神社の神主となる、また尊攘党員となり廃仏殷釈神道帰一の運動に従事す、隠岐県吏員、西田外四ヶ村戸長となる○当選二回(1 2)○明治30年4月18日死去

吉岡直一 大阪府第四区選出 立憲政友会

嘉永6年10月生・大阪府出身○農業を営む、上福島村会議員、学務委員、大阪府会議員となり、日本赤十字社大阪支部幹事、府立大阪博物場評議員となる、また石けん製造所を設立経営す○当選二回(5 6)○明治44年10月6日死去

吉川亮夫 長野県第三区選出 無所属倶楽部

明治19年7月生・長野県出身・早稲田大学政治経済科に学ぶ○酒造業を営む、松尾村会議員、同村長、長野県会議員、同参事会員となり、下伊那郡町村長会長、長野県町村長会長、全国町村会副会長、郡農会長、県治水砂防協会理事となる、また三信鉄道㈱取締役、信濃銀行相談役、大政翼賛会長野県協力会議長、同中央協力会議員となる○当選一回(21)○昭和29年11月1日死去

吉川兼光 千葉県第一区選出 民主社会党

明治35年10月生・千葉県出身・早稲田大学を経て大正14年専修大学経済科卒、のちウィーン大学に学ぶ○毎日新聞記者、京城日報論説委員、中央大学、台北高商各講師、船橋農林学校長、外務省嘱託、商工省在欧貿易通信員となり、衆議院政党法及び選挙法に関する特別委員長となる、また日本社会党中央執行委員、出版宣伝部長、全農本部書記長、日農中央委員、日本教職員組合総主事、総同盟県連顧問、千葉労働金庫監事、全農、生協各千葉県連合会長となる・第三回世界社会主義大会(ストックホルム)に出席のほか、欧米、中国、東南アジア、中南米各国を視察す㊐「政治学大意」○当選六回(22 23 25 26 27 28)

吉川吉郎兵衛　大阪府第四区選出　日本進歩党

明治3年4月生・大阪府出身○日清、日露の戦役に従軍す、津守村助役、同村長、同村会議員、大阪府会議員、同参事会員、大阪市会議員となり、濱口内閣の陸軍参与官、兵役義務者及び廃兵待遇審議会、中央電力調整委員会各委員となる、また戎信用組合長、木津川運河土地㈱取締役、大阪土地建物、白山殖産各㈱監査役となる○当選八回(14 15 16 17 18 19 20 補21)○昭和23年1月20日死去

吉川大介　新潟県第一区選出　改進党

明治25年9月生・新潟県出身・早稲田大学に学ぶ○新潟市会議員、同参事会員、同副議長、新潟県会議員、同参事会員となり、商工省委員、農商省委員となる、また新潟日曜新聞、新潟毎夕新聞各社長、新潟労務供給㈱専務取締役、新潟労務協会常務理事、新潟市燃料小売商業組合理事長、新潟県労務報国会長、同野球連盟会長となる○当選二回(21 25)○昭和29年7月1日死去

吉木陽　山口県第二区選出　立憲政友会

明治14年3月生・山口県出身・明治38年京都帝国大学電気科卒○宇都宮中学校教諭、宇都宮電燈、奥羽電燈各㈱技師長、シーメンス・シュケルト電気㈱技師を経て、周防電燈、中外電気各㈱専務取締役、全州電気、周東自動車各㈱社長、中島電気、全北電気各㈱取締役、周東中学校主となり、東京工材、旭電気各㈱会長、旭軽金属工業、満州工機各㈱社長となる○当選三回(14 15 16)○昭和19年10月4日死去

吉澤仁太郎　新潟県第二区選出　民主党

明治23年12月生・新潟県出身○上組村会議員、同村長、新潟県会議員、同参事会員となる、また農業及び薬酒製造業を営み、村農業会長、県食酢工業組合、中越売薬工業組合各理事長、県町村長会長、全国町村会副会長、県信用農業協同組合、同国民健康保険団体各連合会長、関東糠油、灘鉄工所、埼玉糠油、新潟銘醸各㈱取締役社長、日本食料容器㈱取締役、新潟県酒類販売㈱常務取締役となる、日本進歩党常任幹事となる○当選一回(22)○昭和31年10月24日死去

吉田安　熊本県第二区選出　日本民主党

明治23年2月生・熊本県出身・大正5年明治大学専門部法律科卒○司法官試補となり、のち弁護士の業務に従事す、熊本県会議員、同参事会員、第一次吉田内閣の司法参与官、第三次吉田内閣の郵政政務次官、熊本地方労働争議調停委員となる、日本進歩党幹事、民主党総務、代議士会長、国民民主党総務委員会副会長、改進党院内筆頭総務、政策委員会法務部長、日本民主党総務となる○当選四回(22 23 24 26)

吉田磯吉　福岡県第二区選出　立憲民政党

慶応3年5月生・福岡県出身○若松帆船運輸、芦屋鉄道、海老津炭礦、平山炭礦各㈱社長となり、吉田商事、若松魚市場、若松運輸各㈱社長、山九運輸㈱監査役、大谷炭礦、若松石炭、戸畑魚市場各㈱相談役、石炭鉱業互助会顧問となる、また立憲政友会総務となる○当選五回(12 14 15 16 17)○昭和11年1月17日死去

吉田圓助　福井県郡部選出　立憲国民党

元治元年12月生・福井県出身・明治15年福井県立師範学校卒○農業を営む、福井県会議員、同参事会員、同議長、所得審査委員、営業税審査委員となる、また福井県農工銀行監査役となる○当選一回(11)○大正10年12月30日死去

吉田吉十郎　兵庫県第四区選出　自由党

安政3年12月生・兵庫県出身・明治8年飾磨県師範学校卒、のち東京茂松法律学校に学ぶ○兵庫県会議員、同郡部会議長、明石市会議員、同副議長、

同議長となる、また弁護士の業務に従事し、司法省破産管財人となる○当選一回(5)○昭和17年7月21日死去

吉田敬太郎　福岡県第二区選出　無所属

明治32年5月生・福岡県出身・大正12年東京商科大学卒○三菱鉱業㈱社員、大倉高等商業学校講師を経て平山炭礦㈱常務取締役、大日本酒類醸造㈱監査役、日満鉱業㈱取締役、福岡県石油販売、九州石油各㈱社長となる、また福岡県会議員、内閣委員、大東亜省、内務省各委員となり、のち西南女学院専門部教授、若松パプテスト教会牧師、若松市長となる○当選一回(21)

吉田賢一　兵庫県第三区選出　日本社会党

明治27年11月生・兵庫県出身・大正9年日本大学専門部法律科卒○弁護士の業務に従事す、傍ら小作農救済、農村更生運動に従事、欧州各国の政治、経済及び農業視察巡遊後、皇国農民同盟、皇国勤労者同盟、皇道日本協会、ひのもと会等を興し、これを主宰し、雑誌「ひのもと」を発刊す、明石市会議員、兵庫県賃金委員、厚生省委員となる、また日本社会党代議士会副会長、両院議員総会長、政審会決算部長、綱紀粛正特別委員長となる㊟「日本精神ニ基ク国民共同体ノ実現」へ○当選五回(20 補21 25 26 27)

吉田顯三　大阪府大阪市選出　中正倶楽部

嘉永元年4月生・大阪府出身・漢学、医学及び英学を修む、のち海軍省より英国に留学、ユニバシティー・カレッジに医事衛生学を研究、次いで同国外科学院及び内科学院において学位を受く○函館府民政方病院掛、甲鉄艦乗組医官、海軍病院出仕、英国留学帰朝後、海軍省出仕、海軍軍医少監より同大監に累進、その間海軍病院長、大阪府立病院長兼医学校長となり、大阪地方衛生会委員となる、のち私立吉田病院長となる、また北清事変に際し日本赤十字社病院船弘済丸医長となる○当選二回(7 8)○大正13年3月1日死去

吉田源八　茨城県郡部選出　憲政本党

慶応3年11月生・茨城県出身・英、漢、数学を修む、慶応義塾に学ぶ○農業を営む、茨城県会議員、稲敷郡会議員、同議長となる、また山林を開鑿し桑樹栽培の事業に従事し、蚕業発達に努力す、国光石油取締役社長となる○当選三回(6 補7 8)○大正15年12月18日死去

吉田耕平　岐阜県第三区選出　大成会

天保2年9月生・岐阜県出身・漢学、和歌、茶道を修む○学区取締、地租改正係、岐阜県会議員、同議長となる、また第七十六国立銀行頭取となる㊟「芦ノ一葉」「二荒日誌」「越路ノ旅」「瓊野探勝記」、(遺稿)「安志可備集」○当選一回(1)○明治38年6月4日死去

吉田定之助　福島県郡部選出　立憲政友会

安政4年8月生・福島県出身・私塾に学ぶ○須賀川村会議員、同町会議員、岩瀬郡会議員、福島県会議員、同議長、破産管財人、所得税調査委員となる、また金融業を営み、須賀川電気㈱社長、須賀川銀行頭取、岩瀬郡外五郡座繰製糸合同販売東北社組合常任理事、岩瀬郡二町十二ヶ村販売購買組合長、大日本蚕糸会特別会員となる○当選一回(11)○大正7年9月20日死去

吉田三郎右衛門　北海道庁函館外三支庁管内選出　清和倶楽部

元治元年7月生・北海道出身○海産物商、漁業及び運送業を営む、福山市街各町連合総代人及び郡総代人、福山町会議員、北海道会議員、所得税調査委員となる、また松前銀行頭取となる、日清、日露戦役に際し軍資金として多額の献金をしたほか、公共事業等に金品、土地等を献納す○当選一回(13)○大正7年5月27日死去

吉田 茂（よしだ しげる） 高知県選出 自由民主党

明治11年9月生・東京都出身・明治39年東京帝国大学政治科卒○領事官補、大使館三等書記官、領事、大使館二等書記官、パリ講和会議全権委員随員、大使館一等書記官、総領事（天津、奉天、特命全権公使（瑞典国）、外務次官、特命全権大使（伊国、英国）を歴任、東久邇宮内閣及び幣原内閣の外務大臣、兼終戦連絡中央事務局総裁を経て五度内閣総理大臣となり、兼任外務、第一復員、第二復員、農林各大臣となる、在任中ローザンヌ賠償会議代表委員、ジュネーブ国際連盟総会臨時会議代表者、サンフランシスコ平和会議講和全権委員等となる、また日本自由党、民主自由党、自由党各総裁、自由民主党顧問、日米協会長となる・日米修好百年祭に参列す（著）回想十年・四巻）○当選六回（23 24 25 26 27 28）・（貴）勅選）

吉田 重延（よしだ しげのぶ） 熊本県第二区選出 自由民主党

明治42年2月生・熊本県出身・昭和5年東京帝国大学農学科卒○熊本県技手、同小作官補、地方農林主事、地方事務官、栖本村長、離島振興対策審議会長、第一次池田内閣の自治政務次官となる、また天草郡町村長会長、天草木材林産組合長、天草木材林産協同組合長、天草郡総合開発協会長、同土木協会長、九州商船㈱監査役、昭和建設工業㈱取締役社長となる、自由党幹事、政調会行政副部長、自由民主党政調会内閣副部長、同水産部長、幹事、政調会選挙調査会副会長となる○当選三回（26 27 28）

吉田 省三（よしだ しょうぞう） 兵庫県第三区選出 自由党

明治34年6月生・兵庫県出身・大正14年明治大学法律科卒○司法官試補、検事、判事を歴任し、のち弁護士の業務に従事す○当選一回（24）○昭和26年8月16日死去

吉田 眞策（よしだ しんさく） 広島県第七区選出 立憲政友会

明治16年1月生・広島県出身・明治42年京都帝国大学独法科卒○統監府検事、朝鮮総督府大邱地方裁判所検事を歴任し、のち弁護士の業務に従事す、また私立広陵中学校理事となる○当選一回（15）○昭和2年9月29日死去

吉田 セイ（よしだ せい） 神奈川県選出 国民協同党

明治42年12月生・神奈川県出身・昭和6年広島女子高等歯科医学校卒○歯科医師となり、さきに東京にて歯科診療所を開設、のち横浜歯科医院長となる、また国民党渉外副部長、横浜家庭裁判所調停委員となる○当選一回（22）

吉田 正（よしだ ただし） 長野県第四区選出 日本社会党

明治29年10月生・長野県出身・大正7年東亜同文書院卒○㈱吾井商店支那貿易部長、鳥羽洋行青島支店長となる、のち池田実科中等学校教諭を経て全国購買販売組合連合会理事兼農産部長、日本農機具、日本原麻各㈱取締役、東亜農薬㈱社長、農林省委員、中央農業協力会南方調査室常任委員、行政査察使随員等となり、富士製薬㈱常任相談役、全国農業経済会理事、旺詢社、開明貿易各㈱社長となる、また日本社会党農林政策委員長となる○当選二回（21 25）

吉田 中（よしだ ちゅう） 広島県第十二区選出 憲政会

明治2年11月生・広島県出身・漢学を修む○小学校訓導兼校長となり、新市村長、広島県会議員、同参事会員となる、また農業を営み、西備織物同業組合組長、同顧問、全国硫化染料製造同盟会長、備後新市織物、芦品銀行、三星染料各㈱社長、両備軽便鉄道㈱監査役となる○当選二回（13 14補）○昭和18年3月14日死去

吉田 常三郎（よしだ つねさぶろう） 岐阜県第五区選出 国民協会

天保14年1月生・岐阜県出身・漢学を修む○戸長、地租改正地価監定役、岐阜県会議員、郡学務委員、郡書記、郡徴兵参事員、村長、所得税調査委員、村会議員となる、また吉田倉庫銀行頭取、上有知銀行取締役となる○当選一回（4）○大正7年5月23日死去

吉田 貞次郎（よしだ ていじろう） 北海道第二区選出 無所属倶楽部

明治18年2月生・北海道出身○陸軍歩兵中尉となる、また上富良野村会議員、同村長となり、帝国在郷軍人上富良野分会長、北海道東中富良野及び草分土功組合長となる○当選一回（21）○昭和23年7月25日死去

吉田 軫明（よしだ ともあき） 福岡県第一区選出 立憲政友会

明治21年12月生・福岡県出身・早稲田大学政治経済科に学ぶ○福岡市に九州人事相談所を設け、貧困者のため無料法律相談並びに無料診察治療をなす、のち福岡日日新聞社政治部主任、九州歯科医学専門学校理事、同理事長、福岡高等商業学校顧問となる、また福岡毎日新聞社及び福岡県木堂会を創立す○当選一回（18）○昭和30年9月20日死去

吉田 虎之助（よしだ とらのすけ） 滋賀県郡部選出 立憲政友会

明治元年8月生・滋賀県出身・京都林双塾に学ぶ○農業を営む、吉田区長、常盤村会議員、同村長、栗太郡会議員、滋賀県会議員となる、また郡農会幹事、県治水会幹事、琵琶湖水産物販売購買組合長、近江水産組合長となるほか、琵琶湖真珠㈱を創立し、淡水真珠の研究及び養殖事業に尽力す○当選二回（10 11）○昭和20年9月9日死去

吉田 正雄（よしだ まさお） 福島県第三区選出 無所属

弘化4年8月生・福島県出身○福島県会議員、同常置委員となる○当選二回（3 4）○死去

吉田 羊治郎（よしだ ようじろう） 滋賀県郡部選出 正交倶楽部

明治4年2月生・滋賀県出身・明治23年滋賀県立商業学校卒○高宮町長、同町会議員、滋賀県会議員、同参事会員、所得税調査委員、帝国農会議員となる、また近江水力電気㈱取締役、近江商業銀行監査役、県農工銀行頭取、大正製綿㈱取締役、江若鉄道㈱監査役となる○当選一回（13）・（貴）多額○昭和14年11月11日死去

吉田 吉太郎（よしだ よしたろう） 兵庫県第二区選出 自由党

明治33年9月生・大阪府出身・関西大学専門部法律科に学ぶ○尼崎市会議員、兵庫県会議員となる、また映画興行、次いで土地建物業を経営し、摂津恒産、新大阪土地開発、阪神土地興業各㈱取締役社長となる○当選一回（24）

吉田 禄在（よしだ ろくざい） 愛知県第一区選出 実業同志倶楽部

天保9年9月生・愛知県出身・明倫堂に学ぶ○行政官雇、大宮県権大属、浦和県大属、同少参事、埼玉県出仕、宇和島県典事、愛媛県庶務、租税各課長、名古屋区長兼春日井郡長、名古屋市参事会員、愛知県会議員、同市部会議長となる、また名古屋米穀取引所理事長、第四十六国立銀行頭取、帝国商業銀行創立委員となるほか、鉄道車両㈱を創立す○当選一回（4）○大正5年3月3日死去

吉武 恵市（よしたけ えいち） 山口県第一区選出 自由党

明治36年2月生・山口県出身・昭和3年東京帝国大学政治科卒○東京府属、地方事務官、厚生省職業局登録、総務各課長、職業局総務課長、勤労局庶務課長、東京都人事課長、綜合計画局部長、富山県知事、厚生省労政局長、労働次官を歴任、第三次吉田内閣の労働大臣、兼厚生大臣、衆議院行政監察特別委員長、参議院社会労働委員長となる、また民主自由党政調会労働部長、自由党政務調査会長となるほか、日本労働研究所長、全国無煙炭礦協議会長、大嶺無煙炭礦㈱会長となる・第二十四回国際労働総会（ジュネーブ）に政府代表顧問として、またサンフランシスコ平和会議に講和全権委員代理として出席す○当選三回（24 25 26）・（参）

一回(5)

吉津 度 大阪府第三区選出 立憲政友会

明治11年1月生・大阪府出身○大阪府警察技手、陸軍三等軍医となり、日露戦役に従軍す、大阪府会議員、同参事会員、同議長、大阪市会議員となる、また三友製薬名社長、大阪細菌研究所長、梅田病院長、大阪高等医学専門学校理事長兼講師となる・朝鮮、満州、支那視察のため派遣さる○当選二回(15 16)○昭和31年6月30日死去

吉富 簡一 山口県第一区選出 無所属

天保9年1月生・山口県出身○小菅県大属、大蔵省営繕寮大属、防長新聞資代表社員、先収会社頭取、山口県協同会社々長、山口県会議員、同議長、郡会議員、同議長代理となり、私立防長教育会商議委員、防長倶楽部幹事、日本赤十字社山口支部副長、防長改良米連合組合取締所長、山口武学生養成所評議委員となる○当選三回(1 3 4)○大正3年1月18日死去

吉野 小一郎 神奈川県第五区選出 立憲政友会

明治12年5月生・神奈川県出身・明治39年東京帝国大学政治科卒○日本興業銀行々員、台湾銀行調査、庶務、秘書各課長、東洋拓殖会社 奉天支店長、奉天商業会議所会頭、哈爾浜取引所長、八王寺醸造工業、昭和商会、興亜醸造各(株)取締役、日本合金(株)監査役となる ○当選一回(14)○昭和23年6月20日死去

吉原 正隆 福岡県第十三区選出 立憲政友会

明治14年11月生・福岡県出身・明治39年京都帝国大学経済科卒、のち大学院において殖民政策を専攻す○農業を営み、また朝鮮鎮海において貸家業を経営す、逓信大臣秘書官となる・青島出征軍慰問のため派遣さる○当選四回(11 12 13 14)・貴(多額)○大正15年6月24日死去

吉原 祐太郎 愛知県第十三区選出 政友本党

万延元年8月生・愛知県出身○農、漁業及び鉱業を営む、高師村長、同村会議員、渥美郡会議員、同参事会員、愛知県会議員、同参事会員となる、また渥美電鉄(株)社長となる○当選二回(11 14)○昭和11年3月2日死去

吉原 義雄 新潟県第七区選出 立憲民政党

明治5年9月生・新潟県出身・慶応義塾に学ぶ○農業を営む、西所村―三沼村組合村長、新潟県会議員、南蒲原郡会議員、中之島村会議員、同村長となる、また村農会長、郡農会長、水利組合議員となる○当選一回(15)○昭和5年12月22日死去

吉松 忠敬 宮崎県第一区選出 立憲民政党

慶応元年9月生・宮崎県出身○日清戦役に従軍し、陸軍砲兵一等軍曹となる、宮崎県会議員、同議長、福島村長となる、林業を営む○当選一回(15)○昭和12年8月27日死去

吉村 伊助 京都府第三区選出 立憲政友会

明治6年1月生・京都府出身・東京商業素修学校卒○峯山町会議員、同町長、京都府会議員、同議長、所得審査委員、地方森林会議員となる、また縮緬製造業を営み、丹後縮緬三郡同業組合連合会長、府蚕糸同業組合連合会組長、丹後商工銀行専務取締役、三丹電気、備中電気、北木電気、丹後織物、丹後商品取引、丹後精練倉庫各(株)社長となる○当選二回(15 16)○昭和3年3月15日死去

吉村 鉄之助 滋賀県第一区選出 政友本党

安政5年8月生・東京都出身・漢学を修む○電気機械器具製造並びに輸出入販売業を経営し、東京商業会議所議員、幸橋税務署所轄内営業税調査委員長となる、また吉村商店、江若鉄道、東洋無線電信電話各(株)社長となるほか、日本機械、満州製粉、満州製糖、帝国製麻、帝国電燈、大日本電球、

相模紡績、絹毛紡績各(株)重役となる ○当選二回(13 14)○昭和12年8月28日死去

吉村 英徴 和歌山県郡部選出 憲政本党

嘉永5年7月生・和歌山県出身・独逸語学修業後、明治13年京都府療病院医学校卒○和歌山県漢学授読、京都府療病院医局詰、同看頭となり、のち和歌山県有田郡私立那賀病院長となる、また有田郡医、地方衛生会委員、有田郡産婆及び看護婦養成所教授となる○当選一回(8)○大正5年1月30日死去

吉本 榮吉 石川県第一区選出 自由党

弘化元年10月生・石川県出身・和漢学、数学を修む○石川県測量調方、小学校訓導、地券取調方、戸長、学区委員、石川郡書記となり、石川県会議員、石川郡連合会議員、同議長、地方衛生会委員、郡改良米社長、所得税調査委員、徴兵参事員、坊丸、林中各村会議員、林中村長、水利土功会議員、養倉会議員となる、また郡農談会会頭、北陸土木(株)取締役、加賀肥料(株)社長となる ○当選二回(3 4)○大正5年10月24日死去

芳野 世經 東京府第九区選出 無所属

嘉永2生11月生・東京都出身・漢学を修む○小石川区会議員、同議長となり、東京市会議員、同参事会員、東京府会議員、同議長となり、地方衛生会員、東京市学務委員長、同伝染病予防委員長、同土木常設委員長、東京府教育会長、警視庁防疫評議員となる、またはやくより育英事業に志し私学蓬萊学校を小石川区大塚町に、その分校を日本橋区本石町に設立し、一般子弟の修学に尽力す○当選一回(1)○昭和2年6月20日死去

米窪 満亮 兵庫県第二区選出 日本社会党

明治21年9月生・長野県出身・大正3年東京高等商船学校卒○松昌洋行入社、影島丸二等運転士となり、のち川崎造船所船舶部を経て互光商会入社、同商会シンガポール支店長、大和丸船長、日本海員組合編集、庶務、教育出版、国際各部長となり、日本労働組合会議書記長、亜細亜労働会議主事、国際労働事務局労働理事、社会民衆党、社会大衆党各常任中央執行委員、日本社会党中央執行委員、涉外部長、国会対策委員長、党顧問となる、また片山内閣の国務大臣次いで労働大臣となる・国際労働総会(ジュネーブ)に労働顧問または代表として三度出席す(著)「海のロマンス」「南氷洋を征く」○当選四回(20 22 23 24)○昭和26年1月16日死去

米倉 龍也 長野県選出 国民協同党

明治18年8月生・長野県出身・明治40年盛岡高等農林学校農科卒○千葉県農業技手、同技師、南安曇農学校長、長野県地方技師を歴任、長野県会議員となる、また県信用農業協同組合連合会専務理事、同会長、県信用販売購買利用組合連合会副会長、県農業会長、協同民主党常任中央委員、国民協同党中央常任委員、長野県農業協同組合中央会、同拓殖連合会各会長となる○当選一回(22)・(参一回(1)

米澤 紋三郎 富山県郡部選出 立憲政友会

安政4年3月生・富山県出身・漢学を修む○農業を営む、下新川全郡町村連合会議員、同議長、富山県会議員、同議長、勧業諮問会員となる、また義倉社棟取、越中改進党幹事となるほか、入善銀行を創立し頭取となる○当選二回(8 9)○昭和4年11月10日死去

米澤 與三次 富山県第四区選出 政友本党

明治5年2月生・富山県出身・明治28年専修学校理財科卒○農業を営む、入善町農会長、入善商工会長、下新川郡教育会副会頭となる、また泊銀行、入善銀行各頭取、入善倉庫、富山水力電気各(株)

社長、生地銀行、富山県模範織物工場、小川温泉各株取締役、越中銀行、茨木商店各株監査役となる○当選一回(14)○昭和22年1月12日死去

米田規矩馬(よねだきくま) 広島県第三区選出 立憲政友会
明治24年2月生・広島県出身・大正7年京都帝国大学法律科卒○弁護士の業務に従事す、逓信大臣秘書官、鉄道大臣秘書官となる、のち吉舎町長となる○当選二回(17 18)

米田武八郎(よねだぶはちろう) 広島県郡部選出 無所属
嘉永5年9月生・広島県出身・国学、漢学を修む○副戸長、郡書記、町村連合会議員、同議長、広島県会議員、同常置委員、同議長、雙三郡会議員、同議長、同参事会員となり、徴兵参事員、地方衛生会委員、県農会議長、郡教育会長、所得調査会長となる、また雙三貯蓄銀行頭取となる○当選一回(9)○大正8年5月15日死去

米田實(よねだみのる) 奈良県奈良市選出 憲政会
文久3年7月生・奈良県出身・明治法律学校に学ぶ○教職に従事す、奈良市吏員、同市衛生会委員となる、のち代言人となり、次いで弁護士の業務に従事し、東京組合弁護士会評議員となる○当選二回(9 12)○大正15年9月16日死去

米田穣(よねだみのる) 石川県第四区選出 立憲政友会
元治元年1月生・石川県出身○松任町会議員、同町長となる、また加能新聞社長、大阪新報主幹、鉄道会議員となる○当選四回(10 11 13 14)○大正10年12月2日死去

米田吉盛(よねだよしもり) 神奈川県第一区選出 自由民主党
明治31年11月生・愛媛県出身・大正15年中央大学法律科卒○横浜専門学校を創立し学校長並びに理事長となり、次いで神奈川大学々長並びに同大学理事長となる、また文部省委員、日本私立専門学校協会理事長、日本私立大学協会副会長、文部省大学設置審議会委員、第一次岸内閣の厚生政務次官となる、民主党代議士会長、総務、自由民主党政調会文教部長となる・国際大学協会創立総会(パリ)に大学代表として出席、欧州各国を視察す○当選三回(21 23 27)

米原昶(よねはらいたる) 鳥取県選出 日本共産党
明治42年2月生・鳥取県出身・第一高等学校文科に学ぶ○小樽市岸鉄工所仕上工、育英社事務員、「アカハタ」編集局記者、日本共産党中国地方委員、鳥取県委員長、中央指導部員、中央機関紙部長、中央委員等となる○当選一回

(24)

米原於菟男(よねはらおとお) 石川県第三区選出 立憲政友会
慶応元年10月生・石川県出身・東京高等商業学校及び東京外国語学校に学ぶ○金沢市会議員、石川県会議員、同議長となる、また金沢新報、石川新聞各記者、石川新聞社長、能登鉄道、北陸共同電気各(株)取締役となる○当選二回(14補15)○昭和6年8月8日死去

米山久(よねやまひさ) 石川県選出 日本社会党
明治30年1月生・石川県出身・大正3年石川県立第一高等女学校卒○日本国防婦人会金沢地方本部理事、同石川県支部副支部長、婦選獲得同盟石川県支部指導者となる、また日本社会党中央執行委員、米山商事(株)社長となる○当選一回(22)

米山文子(よねやまふみこ) 山形県選出 民主党
明治35年4月生・長野県出身・大正11年東京府女子師範学校卒○東京市内の尋常小学校及び国民学校各訓導となる、のち中道会婦人部長となり、国民党情報宣伝部副部長、国民協同党婦人部副部長となる○当選一回(22)

依田佐二平(よださじへい) 静岡県第七区選出 大成会
弘化3年2月生・静岡県出身○名主、総代戸長、小区長、大区長、足柄県会議員、伊豆国四郡連合会議長、静岡県会議員、賀茂郡長、同郡会議員、同議長となる、また県生糸同業組合長、郡及び県農会長、県山林会副会長、大日本蚕糸会静岡支会副会長、大日本蚕糸会協議員となる○当選一回(1)○大正13年10月15日死去

依田道長(よだみちなが) 山梨県第二区選出 無所属
弘化元年12月生・山梨県出身○戸長、学区取締、山梨県会議員となる○当選二回(3 4)○大正12年8月3日死去

依光好秋(よりみつよしあき) 高知県第二区選出 日本進歩党
明治27年8月生・東京都出身・専修大学経済科に学び、大正11年東京貿易語学校露語科卒○東京毎夕新聞、読売新聞各政治部記者を経て、朝鮮総督府嘱託、朝鮮総督秘書官、内閣嘱託、阿部内閣の外務参与官、外務省委員、小磯内閣の陸軍参与官となる、また産業組合新報社長、満州金鑛鉱山会社常務取締役となり、のち専修大学専務理事となる○当選三回(18 20 21)

らの部

賴俊直(らいとしなお) 広島県第五区選出 実業同志倶楽部
文久3年4月生・広島県出身・和漢学及び英学を修む○町会議員となる、また製塩業に従事し、竹原銀行取締役頭取、木ノ江汽船(株)、竹原製塩(名)各相談役となる○当選一回(4)○大正15年12月3日死去

りの部

龍野喜一郎(りゅうのきいちろう) 福岡県第三区選出 自由党
明治35年9月生・福岡県出身・大正14年東京帝国大学独法科卒○北海道庁属、千葉県学務課長、鳥取県、宮城県各警察部長、内閣情報部第二課長、京都府学務部長、警視庁刑事部長、兵庫県警察部長、鹿児島県知事、九州地方商工局長を歴任、第三次吉田内閣の法務政務次官、大川市長となる、また西日本貿易(株)取締役、九州紙工品協会長、(株)浜横川鉱業所社長となるほか、民主自由党政調会経済安定部長、自由党政調会内閣部長となる・地方自治体の機構調査のため米国へ派遣さる○当選一回(24)

ろの部

蠟山政道（ろうやままさみち）　群馬県第二区選出　無所属倶楽部

明治28年11月生・群馬県出身・大正9年東京帝国大学政治科卒○東京帝国大学助手、同助教授、同教授を歴任し、同大学講師、海軍経理学校教授、東京商科大学講師、法制審議会幹事、内務省委員等となり、のちお茶の水女子大学長となる、また中央公論社副社長、民主社会主義研究会議長、公益事業学会、水質審議会、気象審議会各会長となり、傍ら政治評論及び著述に従事す㊟『日本政治動向論』『行政原論』『議会・政党・選挙』『政治学の任務と対象』『行政組織論』『現代日本文明史』『比較政治機構論』『政治学原理』○当選一回(21)

わの部

和氣清太郎（わきせいたろう）　広島県第七区選出　実業同志倶楽部

安政3年4月生・広島県出身○戸長、西大田村長、世羅郡会議員、同議長となり、広島県農会議長、世羅郡教育会長となる、また世羅銀行頭取となる○当選一回(4)○大正9年6月26日死去

和崎ハル（わざきはる）　秋田県選出　民主党

明治18年2月生・大阪府出身・明治37年県立秋田高等女学校卒、のち東京私立音楽学校に学ぶ○秋田婦人連盟を設立、その理事となり、婦選獲得同盟秋田支部を設立し婦選運動にたずさわる、また秋田魁新報社女性相談部記者となるほか、新日本婦人同盟秋田支部を創立し、その世話役となる㊟「私の歩んだ道」○当選一回(22)○昭和27年12月30日死去

和田敬義（わだたかよし）　高知県郡部選出　立憲国民党

明治9年8月生・高知県出身・明治34年第三高等学校卒○高知県立第一中学校教員となる、兵事会長、学務委員、土佐農工銀行専務取締役となる○当選一回(10)○明治43年10月17日死去

和田博雄（わだひろお）　岡山県第一区選出　日本社会党

明治36年2月生・岡山県出身・大正14年東京帝国大学英法科卒○農林属、農林事務官、内閣調査局調査官、企画院書記官、農林省米穀局米政課長、大臣官房調査課長、農政局長を歴任、第一次吉田内閣の農林大臣、片山内閣の国務大臣、経済安定本部総務長官、物価庁長官となり、参議院予算委員長、中央農地委員会委員となる、また農林統計、日本開拓各協会長、日本社会党書記長、政策審議会長、顧問となる・再度欧米各国を視察す○当選四回(25 26 27 28)・(参)一回(1)

和田方正（わだほうせい）　栃木県第四区選出　立憲改進党

嘉永3年11月生・栃木県出身○農業を営む、地主総代、戸長、区長、学区取締、塩谷郡学務課長となる○当選一回(4)○明治28年5月2日死去

和田譽終（わだたかもと）　和歌山県第一区選出　無所属

天保13年3月生・和歌山県出身・漢学を修め、フランス法学を学ぶ○和歌山県民政局出仕、和歌山県会議員、同常置委員、名草郡会議員、同議長となる、また代言人となり、次いで弁護士の業務に従事し、和歌山四十三国立銀行支配人、県農工銀行頭取となる○当選一回(1)○明治38年12月31日死去

和波久十郎（わなみきゅうじゅうろう）　三重県第三区選出　議員同志倶楽部

嘉永5年8月生・三重県出身・大鐘塾に学ぶ○農業を営む、三重県会議員、同常置委員となる○当選二回(5 6)○大正8年8月3日死去

若尾幾造（わかおいくぞう）　神奈川県第一区選出　立憲政友会

安政4年12月生・神奈川県出身○横浜市参事会員、同参与、同瓦斯常設委員長となり、横浜商業会議所常議員、生糸検査所臨時商議員となる、また蚕糸貿易商を営み、県蚕糸貿易商同業組合長、横浜蚕糸外四品取引所理事長、若尾銀行頭取、横浜電線製造、横浜火災海上運送信用保険、東京電燈、日本鉄道、京浜電気鉄道、帝国ホテル、湘南電気鉄道各(株)取締役、三ツ引商事各(株)監査役と日清紡績、横浜電気各(株)重役、京浜電力、富士川電力各(株)社長、昭和肥料(株)取締役会長等となる、また立憲政友会総務、犬養内閣の鉄道政務次官となる○当選三回(11 13 14)・(貴)多額○昭和3年4月29日死去

若尾幾太郎（わかおいくたろう）　神奈川県第一区選出　立憲政友会

明治17年3月生・神奈川県出身・横浜商業学校卒○蚕糸貿易商、銀行業、保険代理業等を営み、若尾銀行頭取、帝国ホテル、湘南電気鉄道各(株)取締役、横浜桟橋倉庫、三ツ引商事各(株)監査役となる、また横浜地方裁判所借地借家調停委員、横浜取引所商議員、神奈川県蚕業調査会、同信用組合連合会、同匡済会各評議員、川崎社会館長となる○当選一回(15)○昭和13年12月23日死去

若尾璋八（わかおしょうはち）　山梨県第一区選出　立憲政友会

明治6年7月生・山梨県出身・明治26年東京法学院卒○若尾銀行支配人となり、のち東京電燈(株)常務取締役、同副社長、同社長となるほか、信越電力、大同電力、富士製紙、東洋モスリン、日本製麻、若尾銀行各(株)重役、京浜電力、富士川電力各(株)社長、昭和肥料(株)取締役会長等となる、また立憲政友会総務、犬養内閣の鉄道政務次官となる○当選三回(13 14 15)・(貴)勅選○昭和18年1月10日死去

若杉喜三郎（わかすぎきさぶろう）　新潟県新潟市選出　立憲政友会

元治元年3月生・新潟県出身・明治22年東京帝国大学医学科卒、のちドイツに留学し、内科学、病理学を研究す○東京帝国大学医科大学助手となる、のち新潟市において私立若杉病院を経営す、新潟県市町村立小学校教員恩給顧問医、新潟県立商業学校々医、新潟市会議員、同議長、学務委員、地方衛生会委員となる、また新潟市衛生会々頭、同教育会評議員、北越医学会々頭となる○当選一回(11)○大正5年3月26日死去

若林徳懋（わかばやしのりしげ） 島根県第六区選出　政友本党
明治7年12月生・島根県出身・明治29年島根県師範学校卒○小学校長となる、のち農業を営み、中条村長、村農会長、島根県会議員、同参事会員、西郷町外十一箇村組合議員となる、また満韓塩業（株）社員、原田興業株社長、同顧問となる○当選一回(14)○昭和14年1月24日死去

若林義孝（わかばやしよしたか） 岡山県第一区選出　自由党
明治33年5月生・岡山県出身・昭和2年京都帝国大学法律科卒○京都帝国大学嘱託、大阪学士会倶楽部書記長、敦賀市長、岡山県地方労働委員、衆議院海外同胞引揚に関する特別委員長となり、のち箕面市長となる、また朝日重化学工業（株）取締役社長、日本人造皮革工業連合会長、大阪実業組合連合会専務理事、全国工業用蒟蒻原料連合会長、日本紙革シート製造統制組合理事長、全国蒟蒻原料配給統制協議会理事、日本蒟蒻原料生産活用研究会、県薗草商工協同組合各理事長となるほか、黒住教総務、同顧問となる○当選二回(22 24)

若原観瑞（わかはらかんずい） 鳥取県第二区選出　政務調査会
安政5年8月生・鳥取県出身・漢学、政治経済学を修む、本派本願寺大教校に入り仏教学を学ぶ○宗規に依り僧籍に入る、仏教連合会組織のため尽力す（著）「仏教要旨因縁説」○当選一回(2)○昭和12年12月24日死去

若松虎雄（わかまつとらお） 長崎県第一区選出　民主自由党
明治23年1月生・長崎県出身・大正3年東京帝国大学経済科卒○専売局書記となり、のち久原鉱業（株）社員、久原商事株副支配人、同ロンドン支店長代理を経て、副商務官、在英国大使館商務書記官、外務事務官、同書記官兼逓信書記官、外務省通商局課長、在シドニー、在カルカッタ各総領事を歴任後、外務省嘱託、終戦連絡中央事務局嘱託、同長崎出張所長、長崎県連絡委員会副委員長となる、また日本自由党渉外副部長、長崎貿易（株）社長となる○当選二回(23 24)○昭和24年9月24日死去

若宮貞夫（わかみやさだお） 兵庫県第五区選出　同交会
明治8年1月生・東京都出身・明治32年東京帝国大学政治科卒○逓信属、海事官、東京海事局長兼東京地方海員審判所長、逓信書記官兼高等海員審判官、兼逓信省参事官、北海道、北部各逓信局長、逓信省管船局長兼高等海員審判所長、逓信次官を歴任、軍需局、国勢院、帝都復興院各参与、道路会議、鉄道会議、帝国経済会議各議員等となり、大養内閣の陸軍政務次官となる、また東京帝国大学法科、経済科各講師、電信協会々長となるほか、立憲政友会政務調査会長、総務、幹事長となる○当選六回(15 16 17 18 19 20)○昭和21年9月8日死去

脇榮太郎（わきえいたろう） 広島県郡部選出　立憲政友会
弘化4年10月生・広島県出身・漢籍及び劒術を修む○農業を営む、農兵組頭、庄屋、戸長、第八大区書記、賀茂郡書記となり、広島県会議員、同議長、同常置委員、勧業諮問会員となる、また山陽鉄道、中国紡績各（株）重役、私立関西中学校財団理事となる○当選四回(1 3 5 9)○明治41年12月7日死去

脇坂行三（わきざかぎょうぞう） 滋賀県第四区選出　立憲政友会
嘉永2年2月生・滋賀県出身・漢籍、独逸学及び医学を修む○医師となる、地方衛生会委員、滋賀県会議員、同常置委員となる、また滋賀県農工銀行取締役となる○当選五回(1補 3 4 5 6)○大正3年9月7日死去

湧上聾人（わきがみろうじん） 沖縄県選出　翼賛政治会
明治21年6月生・沖縄県出身・明治45年東京攻玉舎中学校卒○玉城村会議員、沖縄県会議員、同参事会員となる、沖縄県同仁病院を設立経営す、また鉱業に従事す（著）「沖縄救済論集」○当選一回(21)

鷲澤與四二（わしざわよしじ） 長野県第二区選出　国民同盟
明治16年8月生・東京都出身・明治41年慶応義塾大学政治科卒○毎日電報社記者、慶応義塾教師を経て時事新報記者となり、北京特派員となる、のち北京において日刊英字新聞ノース・チャイナ・スタンダード紙を創刊す、また北京新聞、北京燕塵、ベースボール各社長、時事新報社顧問となり、東京アンゴラ、東京繊維興業、東京化学産業、東亜繊維、国策新報各（株）社長となる○当選一回(18)○昭和31年10月1日死去

鷲田土三郎（わしだつちさぶろう） 福井県福井市選出　立憲政友会
安政5年10月生・福井県出身・明治14年東京大学薬学科卒○薬剤師となり、福井県立医学校教諭、福井市会議員、同参事会員、福井県会議員、同議長、所得税調査委員、営業税審査委員となる、また福井商業会議所会頭、福井倉庫、生糸羽二重倉庫各（株）重役となる○当選一回(10)○昭和4年10月27日死去

鷲野米太郎（わしのよねたろう） 京都府第一区選出　立憲政友会
明治16年7月生・京都府出身・明治42年東京高等師範学校、大正4年京都帝国大学独法科卒○小学校訓導、台湾総督府国語学校助教授、同中学校教諭、京都府属、愛宕郡長、京都市助役を歴任す、のち北大阪電気鉄道、神戸信託、太平洋海上火災保険各（株）取締役となる、また日本防水化学研究所長、大原防水工業（株）社長となり、コロイド化学の研究及び経営をなす○当選三回(15 17 18)○昭和12年4月3日死去

早稲田柳右エ門（わせだりゅうえもん） 愛知県第二区選出　自由民主党
明治33年2月生・愛知県出身○商業を営む、瀬戸市会議員、瀬戸市商工会議所会頭となり、衆議院財政及び金融委員長、同図書館運営委員長、同公職選挙法改正に関する調査特別委員長、第二次鳩山内閣の郵政政務次官となる、また民主党総務、政調会副会長、代議士会長、組織局長、国民民主党党務局長、副幹事長、改進党両院議員総会長、日本民主党総務、全国委員会副委員長、自由民主党総務、相談役、代議士会長となる・外務省参与として東南アジア諸国を視察、また第四十八回列国議会同盟会議（ワルソー）に議員団長として参列、欧米各国を視察す○当選七回(22 23 24 25 26 27 28)

綿貫佐民（わたぬきさみん） 富山県第二区選出　日本自由党
明治29年4月生・富山県出身・大正10年慶応義塾大学理財科卒○東山見村会議員、富山県会議員となる、また青島貯木場、庄川林業、合同木材、飛州木材、塚田木工、中越機業、木曽振興、中越通運、富山県食品工業各（株）取締役、金名鉄道、加越鉄道、井波機業、砺波運輸各（株）社長となる、立憲政友会富山県支部幹事長、日本自由党幹事、政調会林業部長となる○当選二回(22 23)○昭和25年9月7日死去

亘四郎（わたりしろう） 新潟県第三区選出　自由民主党
明治32年11月生・新潟県出身・大正7年三条中学校卒、のち米国に留学、同14年ラットガーズ大学卒○第三次吉田内閣の厚生政務次官、衆議院国土総合開発特別委員長となる、また函館定温倉庫、函館倉庫、寺泊産業各（株）取締役、日本栄養素（株）社長、北海道護謨工業（株）監査役となり、日魯漁業株取締役となる、日本自由党幹事、民主自由党常任総務、自由党会計監査、総務、自由民主党相談役となる・東南アジア視察のため派遣さる○当選七回(22 23 24 25 26 27 28)

亘理 胤正（わたり たねまさ） 宮城県郡部選出 憲政会
明治11年4月生・宮城県出身・米国に留学、ニューヨーク州コロネル大学に畜産学を専攻し、兼ねて政治学を研究す○農業、養鶏事業を営み、農事改良に尽瘁し、大日本農会総裁よりしばしば表彰さる、また旧領子弟の育英事業に尽す○当選二回(12・13)○昭和4年8月30日死去

渡部 芳造（わたなべ よしぞう） 鳥取県第三区選出 大日本協会派
文久元年4月生・鳥取県出身・漢学を修む○中国鉄道創立発起人となる○当選二回(23)○昭和11年3月7日死去

渡部 義通（わたなべ よしみち） 埼玉県第一区選出 日本共産党
明治34年7月生・福島県出身・明治大学政経科に学ぶ○著述業に従事す、日本学術会議会員、民主主義科学者協会幹事長兼書記長、社会主義政治経済研究所員となる(著)『日本母系時代の研究』『日本原始社会史』『古事記講話』『日本古代社会』『日本歴史教程』『古代社会ノ構造』○当選一回(24)

渡邊 健（わたなべ けん） 茨城県第一区選出 日本進歩党
明治27年7月生・茨城県出身・大正6年千葉医学専門学校卒○陸軍三等軍医となる、のち医師を開業す、茨城県会議員、渡里村長となるほか、渡里村在郷軍人分会長、同農会長、東茨城郡農会長、県医師会議員となる、また上海事変に応召従軍す・派遣軍慰問のため北支那、蒙疆に派遣さる○当選二回(20再21)○昭和27年3月31日死去

渡邊 昭（わたなべ あきら） 京都府第二区選出 革新倶楽部
慶応2年5月生・本姓(渡邉)・京都府出身・明治22年英吉利法律学校卒○代言人となり、次いで弁護士の業務に従事す、京都府会議員、同参事会員、同副議長、京都市会議員、同議長となり、市学務委員、同教育会評議員、破産管財人となる、また京都弁護士会長となる○当選三回(12・13・14)○昭和15年5月7日死去

渡邊 伍（わたなべ まもる） 広島県第二区選出 昭和会
明治17年6月生・本姓(渡邉)・広島県出身・大正5年京都帝国大学仏法科卒○弁護士の業務に従事す、呉市会議員、同参事会員、広島県会議員、同参事会員、広島市長、呉市第一助役となる、また上海居留民団助役となる・樺太方面視察のため派遣さる○当選二回(15・18)○昭和35年7月25日死去

渡邊 治（わたなべ おさむ） 茨城県第一区選出 無所属
安政3年2月生・茨城県出身・慶応義塾に学ぶ○時事新報社員となり、次いで都新聞社を経営す、のち大阪毎日新聞に主筆としてまねかれ、株式会社に改組後取締役となり、同社初代社長となる○当選一回(1)○明治26年10月15日死去

渡邊 鼎（わたなべ かなえ） 福島県若松市選出 無所属
安政5年9月生・本姓渡部・福島県出身・英学、理化学、医学等を修め、明治21年カリフォルニア大学医学部卒、ドクトル・オブ・メジシンの学位を受く○陸軍軍医試補より同二等軍医正に累進、その間西南の役、日清戦役に従軍し、歩兵聯隊副医官、憲兵隊医官、野戦病院長等となり、兼ねて大阪私立医学校教頭、同博済病院附属医学校講師長、大阪医事研究会長、大日本通俗衛生会、軍医学会各幹事となる、在米中サンフランシスコにて医師を開業、帰朝後若松市に会陽病院を開設す、また会津五郡医会長、県医学会副会長、若松実業市民会長となる○当選二回(7・8)○昭和7年7月18日死去

渡邊 勘十郎（わたなべ かんじゅうろう） 東京府東京市選出 立憲政友会
元治元年10月生・東京都出身・明治22年英吉利法律学校卒○米国に渡航、帰国後殖民協会を創立し、移民事業に従事す、外務省の嘱託により豪州植民地を、また台湾総督の嘱託により南アフリカのトランスバールを視察す、のち自由通信社主幹、東京市助役、同収入役、京成電気軌道㈱監査役となる○当選一回(10)○大正15年10月4日死去

渡邊 國重（わたなべ くにしげ） 熊本県郡部選出 立憲同志会
明治4年8月生・本姓(渡邉)・熊本県出身○小学校教員、台湾総督府雇、同鳳山県属、同台北庁税務課長となる、のち台湾採脳拓殖(資)支配人、新竹製脳㈱取締役、高砂製糖㈱専務取締役を経て台湾興業㈱社長、台湾肥料㈱監査役、日本電報通信社取締役となる、また馬来半島ジョホール王国においてゴムを栽培し、南洋拓殖公司を経営す○当選一回(11)○昭和25年3月10日死去

渡邊 幸太郎（わたなべ こうたろう） 新潟県第二区選出 立憲政友会
明治21年10月生・新潟県出身・明治38年新潟商業学校卒○陸軍歩兵中尉となる、亀田町長、同町会議員、新潟県会議員となり、国勢調査員、小作調停委員、帝国在郷軍人会亀田町分会長となる、また新潟時事新聞社理事となる○当選一回(18)

渡邊 洪基（わたなべ こうき） 東京府第二区選出 無所属
弘化4年12月生・本姓(渡邉)・福井県出身・漢学、蘭学を修め、のち箕作塾、福沢塾等に学ぶ○大学少助教、中助教、外務大録、同少記となり、岩倉全権大使に随行し欧州巡遊後、外務書記官(伊、瑞国駐剳を歴任のほか、東京市会議員、同参事会員、東京府知事、学習院長、帝国大学総長兼文官試験局長官、特命全権公使(墺国兼墺匈国在勤、外務大書記官、太政官書記官、元老院議官、工部少輔

渡辺惣蔵　北海道第四区選出　日本社会党
明治40年1月生・本姓名(渡邊惣藏)・北海道出身・昭和4年日本大学専門部政治科卒○豊島区会議員、社団法人国民食協会常務理事、日刊工業新聞社会企画部長となる、また全国大衆党、労農大衆党、社会大衆党各中央委員、社会大衆党中央青年隊長、全国労働組合同盟出版部長、全国映画劇場従業員組合書記長、日本社会党北海道支部連合会書記長、政策審議会長、執行委員長、同党中央執行委員、総務局総務部長、国会対策副委員長となる・欧米各国視察のため派遣さる(著)「無産階級と現代教育」「天皇制と民主政治」「北海道社会運動史」「北海道終戦政治秘史」○当選二回(25 27)

渡邊敬生　熊本県第四区選出　国民協会
嘉永3年9月生・本姓(渡邊)・熊本県出身・皇漢学を修む○酒造業を営む、熊本県会議員、上益城郡会議員、同副議長、同参事会員、同議長となる、また肥後農工銀行取締役、益城銀行頭取、県酒造組合連合会総理、県酒造組合長となる○当選一回(3)○明治42年4月11日死去

渡邊敬昌　熊本県郡部選出　大同倶楽部
安政2年3月生・熊本県出身・皇漢学、武術を修む○私塾盈進学舎を開き郷党の子弟に文武の教育をなす、また農業、酒造業等を営み、郡勧業委員、熊本県会議員、上益城郡会議員、郡及び県農会議員、郡教育会副会長、郡農会副会長、大日本農会議員、帝国農会議員となり、農事改良、果樹栽培、蚕業、製紙、製糸等多方面にわたり地方産業の開発に尽す○当選一回(9)○大正7年10月15日死去

渡邊忠雄　広島県選出　日本自由党
明治31年7月生・広島県出身・大正13年中央大学法律科卒○司法官試補となり、のち弁護士の業務に従事す、東京弁護士会常議員、日本弁護士協会理事となり、司法省嘱託として欧米の法律制度を調査視察す、また広島精工、昭和造機各(株)代表取締役、(株)富士製作所取締役、広島市長となる○当選一回(22)

渡邊玉三郎　愛知県第三区選出　翼賛議員同盟
明治17年1月生・本姓(渡邊)・愛知県出身○愛知県会議員、同参事会員、起町長、所得税調査委員となる、また毛織物業を営み、起町商工会長、尾西織物同業組合長、県織物同業組合連合会組長、日本織物中央会副会頭、尾西セル工業組合理事長、起町農会長となり、全国工業組合中央会監事、大日本毛織物工業組合連合会顧問となる・派遣軍慰問のため南支那に派遣さる○当選二回(19 20)○昭和26年1月24日死去

渡邊千冬　長野県郡部選出　立憲政友会
明治9年5月生・本姓(渡邊)・東京都出身・明治33年東京帝国大学仏法科卒、のち仏、独、米各国に遊学す○日本製鋼所、北海道炭礦汽船各(株)専務取締役、日仏銀行東京支店支配人、富士製紙(株)相談役となる、濱口内閣及び第二次若槻内閣の司法大臣となり、枢密顧問官、宗秩寮審議官となる・万国人種会議(ロンドン)に出席、また第三十三回列国議会同盟会議(パリ)に参列す○当選一回(10)・(貴)(子爵)○昭和15年4月18日死去

渡邊陳平　栃木県郡部選出　立憲政友会
明治4年6月生・本姓(渡邊)・栃木県出身・私立下野英学校及び作新館に学ぶ○城山村長、同村会議員、栃木県会議員、同参事会員となり、営業税調査委員、県治水会員、同山林会評議員となる、また石材商を営み、下野大谷石材採掘販売組合長、下野電力(株)監査役、宇都宮電球(株)取締役、下野毎日新聞社相談役となる、下野中学校を創立す○当選一回(13)○昭和21年6月11日死去

渡邊銕藏　東京府第一区選出　立憲民政党
明治18年10月生・東京都出身・明治43年東京帝国大学政治科卒、のち英、独、白各国に留学す、法学博士○東京帝国大学法科大学助教授、同教授を歴任、帝国経済会議議員、東京商工会議所、日本商工会議所各理事となり、陸軍省事務嘱託、関東軍司令部附となる、のち東宝(株)取締役、同社長、日本体育大学長、渡邊経済研究所長、全国無尽集会所理事長、(株)自由アジア社長となる(著)「現代社会政治管見」「工場経営論」「産業合理化」「商事経営論」「経済政策要論」○当選一回(19)

渡邊徹　兵庫県第二区選出　中央交渉部
天保12年8月生・兵庫県出身○神奈川府巡察補、同巡察、神奈川県少参事、五条県大参事、甲府県権大参事、租税寮出仕、秋田、茨城、長崎各県参事、兵庫県武庫兼菟原郡長、飾東兼飾西郡長、明石郡長、御影町長を歴任す、のち酒造業を営み、灘酒家銀行頭取、全国酒造業者組合連合会長、神戸貯蓄銀行、日本酒造火災保険各(株)頭取となる○当選一回(2)○大正2年10月19日死去

渡邊徳助　岐阜県第三区選出　立憲政友会
明治4年12月生・本姓(渡邊)・岐阜県出身○岐阜県会議員、同参事会員、同議長となる、また多年亜炭鉱業を経営し、蘇東銀行、中部電力各(株)監査役、同取締役となる○当選一回(16)○昭和25年7月12日死去

渡邊兵四郎　北海道庁小樽区選出　無所属
弘化3年3月生・本姓(渡邊)・北海道出身・普通学を修む○漁業を営む、学務委員、徴兵参事員、小樽区会議員、北海道会議員、同副議長、同議長となる、また小樽郡漁業組合頭取、小樽外六郡漁業組合連合会長、第二回水産博覧会評議員、小樽商業会議所会頭、小樽水産組合長となる○当選一回(10)○昭和7年5月11日死去

渡邊正清　徳島県第一区選出　立憲民政党
慶応2年9月生・徳島県出身・明治28年明治法律学校卒○司法官試補、検事を歴任、のち弁護士の業務に従事し、徳島市会議員となる、また徳島毎日新聞社監査役、日本化学工業(株)取締役となる○当選一回(15再)○昭和3年9月3日死去

渡邊又三郎　広島県第一区選出　無所属
嘉永3年4月生・広島県出身○芸州藩銃隊副役となる、のち代言人の業務に従事し、広島県会議員、同副議長、同市部会議長、広島市会議員、同議長、広島市長となる、また広島代言人会副会長、四国代言人会長となるほか、中国新聞を創刊す○当選三回(1 2 5)○明治43年7月18日死去

渡邊本治　福岡県第二区選出　自由民主党
明治34年4月生・愛媛県出身○小倉硝子工業、渡辺鉱業、渡辺商事、伊予製紙各(株)取締役社長となり、日本石炭鉱業連合会常任理事、北九州石炭鉱業会顧問、福岡地方裁判所飯塚支部調停委員、飯塚区検察庁司法保護委員、自由民主党幹事となる○当選一回(28)○(29・昭和36年3月14日死去)

渡邊泰邦　北海道第三区選出　日本社会党
明治24年8月生・東京都出身・早稲田大学政治経済科専門部に学ぶ○函館新聞記者となる、函館区会議員、同市会議員となり、関税調査委員会委員、商工省委員となる、また大政翼賛会中央協力会議員となる○当選四回(17 19 20 21)○昭和24年10月5日死去

渡邊祐策　山口県第四区選出　立憲政友会
元治元年6月生・山口県出身・漢学を修む○宇部村会議員、同助役、宇部市会議員、同議長となり、所得税調査委員、鉄道会議議員となる、また宇部電気、宇部鉄工所、宇部紡織、宇部セメント

各株取締役社長、宇部鉄道、宇部銀行、長門銀行、沖ノ山炭礦各株取締役となるほか、宇部徒弟学校、済美実科高等女学校、沖ノ山尋常小学校、長門工業学校、沖ノ山病院等を設立経営す○当選四回(11 13 14 15)○昭和9年7月20日死去

渡邊猶人（わたなべなおと） 長野県第七区選出 立憲政友会

天保11年12月生・長野県出身・藩学校に学び、のち安井塾に漢学を修む○飯田藩教育助教となる、藩兵東征に際し軍監兼使番となり従軍す、のち同藩民政掛、学校設立世話役、学問助教、神祇官出仕、飯田県民政掛主務、戸長、学区取締、筑摩県出仕、区長兼開産社長を経て、下伊那郡書記、同郡長兼郡徴兵事務官兼中学校長、更級郡長兼埴科郡長を歴任し、長野県会議員、郡会議員、飯田町長、郡農会特務幹事となる○当選一回(6)○明治41年6月3日死去

渡邊與七（わたなべよしち） 宮崎県選出 立憲政友会

明治11年5月生・宮崎県出身・明治35年東京高等商業学校専攻科卒○日露戦役に従軍し、陸軍一等計手となる、油津町会議員、南那珂郡会議員、宮崎県会議員、同副議長、同議長、営業税調査委員となる、また酒造業を営み、油津漁業組合長、郡酒造組合長、県及び郡水産会長、帝国水産会評議員、油津信用組合長、県信用組合連合会理事、県酒造組合連合会長、酒造組合中央会評議員、日南水産、油津製氷冷蔵各(株)取締役社長、日向製氷(株)取締役となる○当選一回(18)○昭和20年4月16日死去

渡邊良夫（わたなべよしお） 新潟県第二区選出 自由民主党

明治38年10月生・新潟県出身・昭和6年大阪商科大学高商部卒○国民新聞記者となり、情報局、外務省、内閣各嘱託、国務大臣、総理大臣等の秘書事務を委嘱さる、農林大臣秘書官、第三次吉田内閣の建設政務次官、第二次岸内閣の厚生大臣となる、また民主自由党副幹事長、政策推進本部次長、自由党党務局長、副幹事長、自由民主党総務、政調会副会長、相談役となり、全国河川総合開発期成同盟会副会長、全国土地改良事業団体連合会理事、新発田育英会会長となる○当選七回(23 24 24再 25 26 27 28)

渡邊磊三（わたなべらいぞう） 岡山県第五区選出 政務調査会

天保12年2月生・岡山県出身・漢籍を修む○戸長、区長、郡長、岡山県会議員となる○当選二回(1 2)○明治45年7月23日死去

議会制度七十年史

衆議院議員名鑑

昭和三十七年十二月印刷
昭和三十七年十二月発行

編集 衆議院 参議院

印刷 大蔵省印刷局